

目 次

1 提案趣旨	1
--------------	---

2 提案内容	1
--------------	---

- (1) 生徒指導の全体計画
- (2) 生徒指導システム
- (3) 時を守り、場を清め、礼を正す
- (4) 学業指導の充実
- (5) P T Aとの連携

3 今後の課題	9
---------------	---

- (1) 機能する組織体制の維持
- (2) 学校・保護者・地域が連携した継続的な指導
- (3) 学級経営力の向上
- (4) 小中連携

組織を生かした生徒指導の在り方 ～学業指導の充実を目指して～

提案者 さくら市立氏家中学校教諭 石川 博

1 提案趣旨

社会は少子高齢化、情報化、都市化、グローバル化などの影響で環境や意識が大きく変化し、様々な課題が生じている。また、生徒指導上の問題行動の背景には、人間関係の希薄化や規範意識の低下等が関係していると指摘されている。このような状況において、学校教育に求めらる内容も年々増してきている。特に学習指導や生徒指導に対する保護者や地域の期待は大きくなっている。そこでは、様々な価値観や利害が交錯し、これまでの常識やモラルだけで物事を処理することが難しくなっている。特に、不登校、暴力行為、性に関する問題、保護者の無理な要求、携帯電話を利用したいじめの問題は、大きな社会問題になっている。そして、これらの問題を解決するには、様々な問題解決の力が求められる。

そこで、学校生活において、生徒一人一人が生きがいを感じ満足感や充実感を味わえたり、将来の夢や希望を持って自己実現が図れたりするように、望ましい人間関係の育成や、健康で安全な生活を送ることなど、学校教育の充実が大きな役割を担っている。

そのためには、生徒一人一人の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、同時に公共の精神や社会規範を尊重する意識や態度を大切にし、自主的・自律的に判断、行動し、積極的に自己を生かすことができるよう社会的資質や能力・態度を育成していくことが必要だと考える。

以上のことから、本研究では「組織を生かした生徒指導の在り方～学業指導の充実を目指して～」というテーマのもと、大規模校として抱えている課題等に適切に対応していくために、生徒指導体制と学業指導の充実を中心に本校の実践を提案したい。

2 提案内容

(1) 生徒指導の全体計画

ア 生徒指導の目指すもの

学校教育目標・経営方針・努力点をふまえた上で、一人一人の生徒についての理解を深め、一人一人に存在感、自己肯定感を感得させ、自己実現を図る援助をする。

イ 生徒指導の基本方針

- (ア) 生徒理解を深め、援助・指導を推進する。
- (イ) 基本的な生活習慣を身に付けさせ、道徳性の育成と向上を図る。
- (ウ) 教師相互及び家庭、地域社会、関係機関との連携を密にし、諸問題の早期発見、早期解決に努める。

ウ 生徒指導スローガン

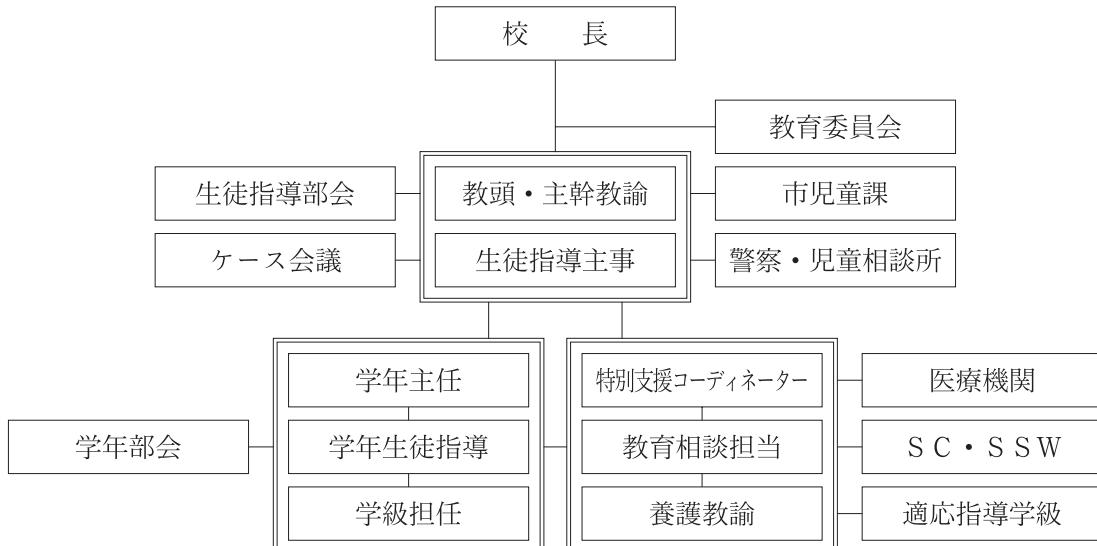
「時を守り、場を清め、礼を正す」

エ 本年度の重点目標

- (ア) 生徒理解に努め、教師と生徒の心の触れ合いが持てるようとする。
- a 教育相談の充実
 - b 情報の交換・共有
- (イ) 学級経営を充実させ、生徒一人一人に存在感と有能感を持たせ、安定した張りのある生活ができるようとする。
- (ウ) 基本的生活習慣を身に付けさせ、充実した集団生活が送れるようとする。
- a あいさつをする。
 - (a) 登下校時のあいさつの励行 (b) 授業の始まり、終わりのあいさつの励行
 - (c) 廊下等でのあいさつの励行 (d) 大きな声で返事ができる習慣を身に付ける
 - b 時間を守る。
 - (a) 遅刻をしない (b) 授業開始時刻に遅れない
 - c 公共物を大切にする。
 - (a) 清掃をしっかり行う (b) トイレをきれいに使う (c) 教室内の整理・整頓
 - (d) 用具を大切に使う (e) 駐輪場を整然ときれいに使う
 - d 交通ルールを守る。
 - (a) 交通安全教室の実施 (b) 自転車の整備 (c) ヘルメットの着用
 - (d) 交通ルールの遵守
- (エ) いじめの根絶を図る。
- a あゆみを生かした関係づくり b 生活に関するアンケート調査
 - c Q-Uの実施（2回） d 家庭訪問・教育相談（2回）・第三者面談

(2) 生徒指導システム

ア システム図



イ 生徒指導部会

- (ア) 参加者 教頭、生徒指導主事、教育相談担当、学年生徒指導、交通担当
養護教諭、特別支援コーディネーター
(イ) 実施日 月曜日 2校時

ウ 運営委員会

- (ア) 参加者 校長、教頭2名、主幹教諭、生徒指導主事、教育相談担当
学年生徒指導、養護教諭、特別支援主任
(イ) 実施日 水曜日 1校時

エ ブロック会議について

(ア) 目的

基本的に、毎月第4水曜日に位置付け、①学校経営・学年経営、②学習指導部会、③心の教育部会、④健康安全部会の4つの部会を開催し、校内の教育活動及び組織の活性化を図る。また、学校評価等の内容で会議を実施する場合には、「2組織構成」のように部会を細分化して会議を行う。なお、学年主任会は、運営委員会の一部を運用することもある。

(イ) 組織構成 (◎部会長、○グループ代表)

- a 学校経営・学年経営部会 (①学年主任部会、②事務部会)
- b 学習指導部会 (①教科主任部会…各教科、②領域部会…道徳、学級活動、総合)
- c 心の教育部会 (①教育相談、②人権教育、③道徳教育)
- d 健康安全部会 (①環境美化、②健康指導、③交通指導)

部会名	部員
学校経営・学年経営部会	◎主幹教諭、1学年主任、2学年主任、3学年主任、特別支援主任、事務長、事務担当、教頭①、教頭②
	○事務長、事務担当、教頭①、教頭②
学習指導部会	◎学習指導主任、副教務、学年副主任 (国)(社)(数)(理)(英)(特支)(音)(美)(保体)(技・家)(道徳)
	○特活主任 (総合)(進路指導)(生徒会担当)
心の教育部会	◎教育相談担当、○生徒指導主事 特別支援CO、養護教諭②、学習室担当
	○人権教育担当
	○道徳教育担当
健康安全部会	○清掃担当、PTA環境整備部
	◎養護教諭①、養護教諭、栄養教諭
	○交通指導担当、教職員2~3名

(3) 時を守り、場を清め、礼を正す

ア 朝の読書（時を守り）

- (ア) 学校生活のスタートに落ち着きを持たせ、生活習慣の改善をねらう。
- (イ) 読書の習慣を身に付けさせる。
- (ウ) チャイムで授業を始める。

一時が一事、生徒も教師も一時に一事を集中させる。



朝の読書

イ 清掃のコンセプト（場を清め）

- (ア) 自分たちの大好きな氏家中学校だからきれいにしておきたい。
- (イ) 学校がきれいになると自分がうれしい。
- (ウ) 今日も先生に褒められた。
- (エ) やらされる掃除ではなくすすんできれいにするそうじ。

「心」を磨き、「自分」と向き合う時間とする。



地域のクリーン活動

ウ あいさつ（礼を正す）

- (ア) 生涯学習課と少年指導員との連携したあいさつ運動
市生涯学習課・少年指導員・教職員が、朝の登校時間帯に1年間で5回、のぼりの旗を持ってあいさつ巡回運動を実施した。
- (イ) 小中学校が連携したあいさつ運動
中学生がボランティア活動として小学校に出向き、小学校の教職員やPTAと合流し、あいさつ運動を実施した。生徒は、ボランティアとして希望者を募り、登校時間に合わせ、あいさつロードをつくり、児童を出迎えた。
- (ウ) 生徒会・中央委員によるあいさつ運動
生徒会の役員と、1学期の学級委員で組織する中央委員が中心となり、朝の登校時間帯に昇降口付近であいさつ運動を実施した。
- (エ) おはようからはじめる人づくりの取組
市教育委員会では、「おはようからはじめる人づくり」を合い言葉に一日のスタートである朝のあいさつの実践が、基本的な生活習慣の育成や地域住民との交流を通して人づくりにつながるととらえ、朝のあいさつ運動を展開している。



(ア)



(イ)



(ウ)

(4) 学業指導の充実

学校行事を通して、人間関係作りやコミュニケーション能力を形成し、学級集団への所属感や連帯感を深め、仲間と協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的な態度を育てる。特に、本校の「集団」の持つ「力」を最大限に生かして、教員や生徒を育てる。

ア 学校行事



(ア) 運動会 男子・組体操



(イ) 運動会 応援合戦



(ウ) 校内駅伝大会



(エ) 合唱コンクール



新入生歓迎会

イ 生徒会活動

(ア) 生徒会役員が中心となり、企画・運営を行う。各部活動の紹介を新入生向けに行い、部活動への加入を勧め、上級生としての自覚を深める。

(イ) 生徒会役員・中央委員会が中心となり、学校の課題について話し合い、問題解決に向けて企画し、実践する。

平成29年度は、情報モラルについて提案があり、スマホやケータイ、ネットをみんながトラブルにならざる利用するためには、どのようなルールやマナーが必要なのか。話し合い活動を通して、リーフレットにまとめた。そして、リーフレットを作成し、全校生に配付した。

家族と話し合ってルールを作ろう！

具体例

- ・使用時間は、勉強時間の半分にする。
- ・夜の9時以降は電源をOFFにする。
- ・インターネットの操作は、保護者のいる前だけにする。
- ・充電はリビングルームで行い、自室には持てない。



補足説明
兵庫中学校では、スマートフォン持者のリストの平均的なスマートフォン持者より30%以上上回ったという調査結果も出ています。今の生活に本当に必要なかを考え、持っている人に、利用できる時間や利用できる場所などにじめをつけて、上手に使っていきましょう。

正しいスキルを身に付けよう！

具体例

- ・セキュリティ対策ソフトをインストールして、コンピュータウイルスの感染を防ぎたり、有害なページをブロックしたりする。
- ・通信機能をOFFにして通話のみの契約にするなど、必要に応じて使えるように検討してみる。
- ・SNSなどでも、見知らぬ人の接觸は避ける。



補足説明
インターネットは世界中つながっており、さまざまな有害情報や悪意のある人物とも、常に接触する可能性があります。ワンクリックで詐欺で多くの請求をされたり、データメールなどの迷惑メールが送られてきたりしないよう、ファイルダーリングなどのバリアを張っておきましょう。

モラルを守ってみんなで幸せに利用しよう！

具体例

- ・無断で撮影や録画・録音をしない。
- ・易方に個人情報や画像などをネット上に掲載しない。
- ・メッセージを送信したり書き込みださる前に、相手を傷つけないか、誤解されないか、もう一度内容を確認する。



補足説明
一度インターネット上に掲載された情報は、「デジタルクトゥ」と言われるように、完全に削除することはできなくなります。また、肖像権の侵害やいじめ問題など、あなたが個人責任を負う犯罪の加害者になってしまうこともあります。

マナーを守って気持ちよく利用しよう！

具体例

- ・食事や会話の席では操作しない。
- ・「歩きスマホ」や「ながら運転」など絶対にしない。
- ・会話の席ではスマートフォンで設定し、大声での通話などもしないようにする。
- ・学校など持ち込みが禁止されている場所には持らなくな。



補足説明
スマートフォンを持っている人も持っていない人も、みんなが楽しく生活するために、持つていても相手のことを想いやって利用していましょう。また、大切なことは、直接会って日本語で話すことです。

生徒たちが考えた、情報モラル・ルールの4箇条

- ・機能を制限して安全に利用しよう。
 - ・時間や場所を制限して有効に利用しよう。
 - ・モラルを守ってみんなが幸せに利用しよう。
 - ・マナーを守って気持ちよく利用しよう。



ウ 情報モラル教育

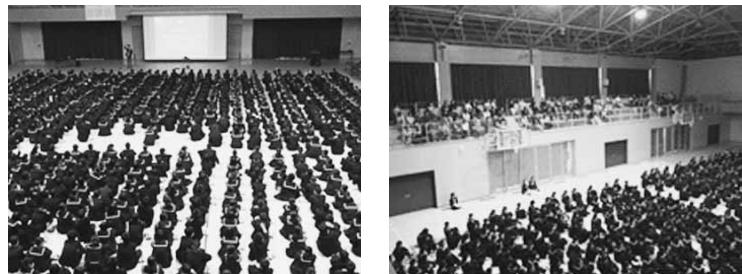
(ア) メディアチャレンジシート

生徒のメディアに接する時間が大変多いことが課題となっている。そこで、家庭でルールを決め時間を有効に活用して学力アップを図るため、平成27年度から取組を実施している。自分の生活を見つめ直し、余裕ができた時間を勉強や読書等に有効活用するため、家庭との連携協力の下、取り組んでいる。

(塩谷南那須教育事務所、塩谷南那須地区教育委員会連合会)

(イ) 情報モラル講演会

L I N E によるいじめや S N S に軽はずみな画像やつぶやきを投稿して問題視される等のトラブルが多く発生している。そこで、いじめやネットトラブルへの対応を生徒自身が学ぶ機会となった。また、保護者への啓発を図るよい機会にもなった。



講師 工藤陽介（デジタルアーツ株式会社）

(ウ) 保護者向け啓発資料

本校でも、携帯電話の所持率が高く、ネット上のトラブルが発生することが懸念されている。そこで、生徒にスマートフォン及び携帯電話、ゲーム機等を持たせている家庭に、改めてその使用について十分話し合いをしたり、使用内容も把握したりする機会として、全家庭に啓発資料を配付した。内容の特徴としては、子どもが行った行為が犯罪になることを理解しやすい資料とした。

例

○実名の書き込みなどの個人情報の発信や写真・動画の投稿等をする。

⇒肖像権の侵害・名誉毀損罪等

○「死ね」「ウザイ」「キモイ」などや相手になりすまして嘘の書き込みをする。

⇒傷害罪等・脅迫罪・名誉毀損罪等

○相手について事実ではないうわさの書き込みをする。

⇒名誉毀損罪・侮辱罪等

(5) P T Aとの連携

ア 「愛のパトロール」活動

保護者が地域内をパトロールしながら、生徒に声をかけるもので、生徒の非行や交通事故等を未然に防止し、健全育成を目指すものである。このパトロールは取り締まりが目的ではなく、健全育成を目指した運動で、市教育委員会や警察署が後援となり、学校、保護者、関係機関と連携しながら活動した。



「愛のパトロール」活動

イ 市PTA協議会が保護者向けに作成したパンフレット

情報モラル教育の一環でアンケートを実施した。中学生のインターネット・携帯電話の利用の仕方を把握することで、各家庭の意識や取り組み方に大きな隔たりがあることが分かった。そこで、生徒が正しく判断し実践力を培うことができるよう、保護者への啓発活動の一環としてパンフレットを作成した。

保護者のみなさんへ

なぜ～メディアシートの活用が必要なのでしょう

近年、子どもたちの「インターネット活用」や「メディア活用」が、社会問題になっています。さくら市でも例ではなく、平日子どもゼロ、DVDも15歳未満(2時間以上見たら規制)に対する子どもの割合は、全国平均より遙かにあります。(26 郡延年)

主な家庭でのメディアDVDS視聴時間
(1歳児～6歳児)

年齢	時間
1歳児	11.5
2歳児	12.1
3歳児	14.6

主な家庭でのスマートフォンの使用時間
(8歳児～中学生)

年齢	時間
8歳児	16.1
9歳児	22.4
10歳児	24.2

※ゲーム機器等、スマートフォンの使用時間も加算すると、さらに間に隔てなくなります。

面白いな～。
朝が起きられない。
勉強が間につかない。

メディアを使いすぎると…

ゲームがなかなかやめられない。
この書き込み…なんだろう。

見送る、明日の話題に入れないと。

そこで…

家族みんなで、メディアの適切な使い方について話し合いましょう！

さようなら
午後8時過ぎたら
また明日。

ふしうよう
家族ができた
その時間。

くらくと
朝起きできるよ
明日の朝。

午後遅いのやつには、午後9時までに寝なさいよ。

メディアをどう活用するかで生まれたお困りの問題は、家の団らんやお手伝い、体験活動など様々な形でありますように、アドバイスや工夫をしましょう。

おメディアの使用時間を意識し、「午後・早起き・朝ごはん」の生活リズムを家庭全員でつくりていきましょう。

さくら市PTA協議会

パンフレット

